

PGI 第26回 マスターズ チャンピオン



4/22(火)▶27(日)ボートレース桐生

桐生を舞台に2年ぶりのナイター開催として行われるマスターズチャンピオン。今年は大物新人レーサーが続々出場し、歴代トップクラスの豪華メンバーによって争われる。勢いのあるニューカマーか、それとも現行のメンバーが勢いを受け止めるのか。ベテラン達の熱き6日間に注目したい。



昨年覇者・菊地孝平



**池田浩二がマスターズ初出場！
中島孝平・笠原亮らSG覇者もデビュー**

18年に年齢制限が現在の45歳以上に引き下げられたことにより、新陳代謝が活発になり、より出場選手の顔ぶれも豪華になったマスターズチャンピオン。今年はG I ウイナーが44人、SG覇者27人と歴代トップクラスのメンバーがそろい、6日間の熱いレースが繰り広げられる。

優勝候補筆頭はドリーム戦1号艇にも決まった池田浩二だ。G I 優勝14回、SG 10冠のレジェンドも46歳になった今年からマスターズデビューを果たす。昨年はグランプリを含むSG優出4回と変わらぬ存在感を発揮。今年に入っ

てからも江戸川周年で準優勝、来月のオールスターも多くのファンの支持を得て4位で出場が決定した。世代屈指の実力者が大会初出場初Vを目指す。

45歳となり今年からデビューを迎えるのは9選手。近年は原田幸哉や井口佳典、菊地孝平といった「マスターズ」新入生が優勝をしているだけに軽視できない世代だ。今年も中島孝平や笠原亮、湯川浩司といった歴代SGウイナーがデビューを迎えるが、特に注目したいのが笠原。昨年10月中旬のびわこから2月の東海地区選まで11連続優出と脅威の記録を達成し、今

MASTERS CHAMPION SHIP

表1

第26回マスターズチャンピオン出場選手選出順位表

出場順位	登番	選手名	支部	勝率
当該施行者 希望選手	3541	三 嶌 誠 司	香川	6.51
	3716	石 渡 鉄 兵	東京	6.48
	3876	中 辻 崇 人	福岡	8.04
	3388	今 垣 光 太 郎	福井	7.45
	3024	西 島 義 則	広島	6.81
	3256	三 角 哲 男	東京	6.57
	3412	鈴 木 博	埼玉	6.46
	4055	吉 田 俊 彦	兵庫	6.43
	3961	谷 村 一 哉	山口	6.35
	4025	山 本 隆 幸	兵庫	6.18
	3613	角 谷 健 吾	東京	6.14
	3849	中 岡 正 彦	香川	6.14
	13	3941	池 田 浩 二	愛知
14	3721	守 田 俊 介	滋賀	7.43
15	3854	吉 川 元 浩	兵庫	7.35
16	3415	松 井 繁	大阪	7.30
17	3737	上 平 真 二	広島	7.16
18	4019	笠 原 亮	静岡	7.14
19	3159	江 口 晃 生	群馬	7.11
20	3783	瓜 生 正義	福岡	7.10
21	3719	辻 栄 蔵	広島	7.05
22	3898	平 田 忠 則	福岡	7.00
23	3952	中 澤 和 志	埼玉	7.00
24	3946	赤 岩 善 生	愛知	6.98
25	3779	原 田 幸 哉	長崎	6.97
26	3942	寺 田 祥	山口	6.93
27	4084	杉 山 正 樹	愛知	6.92
28	3743	林 美 憲	徳島	6.90
29	3822	平 尾 崇 典	岡山	6.90
30	4013	中 島 孝 平	福井	6.85
31	4024	井 口 佳 典	三重	6.83
32	4044	湯 川 浩 司	大阪	6.81
33	4061	萩 原 秀 人	福井	6.80
34	3909	佐 々 木 康 幸	静岡	6.79
35	3959	坪 井 康 晴	静岡	6.79
36	4079	出 畑 孝 典	福岡	6.78
37	3435	寺 田 千 恵	岡山	6.78
38	3473	石 川 真 二	福岡	6.76
39	3978	齊 藤 仁	東京	6.76
40	3557	太 田 和 美	大阪	6.74
41	3995	重 野 哲 之	静岡	6.74
42	3422	服 部 幸 男	静岡	6.71
43	4002	古 結 宏	兵庫	6.70
44	3744	徳 増 秀 樹	静岡	6.69
45	4030	森 高 一 真	香川	6.68
46	4080	山 崎 哲 司	愛知	6.65
47	4614	石 倉 洋 行	福岡	6.63
48	4036	金 田 諭	埼玉	6.61
49	3997	北 村 征 嗣	大阪	6.60
50	4063	市 橋 卓 士	徳島	6.60
51	4102	益 田 啓 司	福岡	6.58
52	3679	飯 島 昌 弘	埼玉	6.58
予備1	3576	白 水 勝 也	福岡	6.57
予備2	4042	丸 岡 正 典	大阪	6.56
予備3	4108	吉 村 正 明	山口	6.53

期勝率は8点台をマークする。3月のからつ周年でFを切り今シリーズ後には休みに入るが、磨き抜かれたターンスピードは他の脅威

となるだろう。今年の新生のほとんどは83期に集中しているが、その中で異彩を放っているのが石倉洋



勝率トップでドリーム戦1号艇に決まった池田浩二

88期の益田啓司がキャリア24年なのに対して石倉はわずかに14年ほど。106期から選手募集の門戸がそれまでの20歳未満から30歳未満に広がったことで、石倉は107期生として10年11月にデビューした。この時すでに30歳でヤングダービーの出場資格はなく、年齢で区切られるPGIはこれが初出場となる。異色の新入生がいきなり大輪の花を咲かせるか。

優勝者には優先出走権が与えられるマスターズリーグ戦からも強豪がズラリ名を連ねた。近年はビッグレースへの出場はほとんどなかった中辻崇人がここに出てくるのは話題の一つだろう。昨年は優勝8回を重ね、年間最多勝タイトルも獲得。今年に入ってからもうラッシュが止まらない実力派のレースは楽しみでならない。

三角哲男は3月に58歳となったが、若手の頃から

優勝者には優先出走権が与えられるマスターズリーグ戦からも強豪がズラリ名を連ねた。近年はビッグレースへの出場はほとんどなかった中辻崇人がここに出てくるのは話題の一つだろう。昨年は優勝8回を重ね、年間最多勝タイトルも獲得。今年に入ってからもうラッシュが止まらない実力派のレースは楽しみでならない。

三角哲男は3月に58歳となったが、若手の頃から

優勝者には優先出走権が与えられるマスターズリーグ戦からも強豪がズラリ名を連ねた。近年はビッグレースへの出場はほとんどなかった中辻崇人がここに出てくるのは話題の一つだろう。昨年は優勝8回を重ね、年間最多勝タイトルも獲得。今年に入ってからもうラッシュが止まらない実力派のレースは楽しみでならない。

表2 24年度・マスターズリーグ戦優勝者

年月日	場	優勝者	決まり手
2024/5/20	下関	谷村 一哉	逃げ
6/9	芦屋	角谷 健吾	まくり
6/23	津	吉田 俊彦	逃げ
8/6	浜名湖	中岡 正彦	まくり
9/18	江戸川	中辻 崇人	逃げ
10/6	三国	今垣光太郎	まくり
10/31	福岡	山本 隆幸	逃げ
11/13	鳴門	鈴木 博	逃げ
12/12	住之江	西島 義則	逃げ
2025/1/22	桐生	三角 哲男	まくり

らの速攻戦は今なお健在。1月の当地マスターズリーグでも5コーズから一気まくりで優勝しているだけに、期待が持てる。

そして地元・群馬支部からは江口晃生がただ一人の出場となる。当地では126優出44Vと当地のことは全て知り尽くしている桐生の重鎮は、一走目から気合の入ったレースを見せてくれるはずだ。

(成績対象期間:2024/2/1~2025/1/31)

MASTERS CHAMPION SHIP



表3 近10年で桐生GII以上のレースを優出した選手

選手名	優出した特別競走
江口 晃生	17年関東地区選①、65周年⑤、23年MB大賞⑥
今垣光太郎	62周年④
松井 繁	61周年①、63周年①
寺田 千恵	18年レディースチャンピオン②
三嶋 誠司	23年MB大賞①
太田 和美	66周年②
飯島 昌弘	62周年⑥
辻 栄蔵	62周年①
上平 真二	60周年③
瓜生 正義	59周年③、60周年①、62周年⑤、65周年③、68周年②
寺田 祥	62周年②
齊藤 仁	59周年④
笠原 亮	15年MB大賞①、60周年⑥、23年MB大賞④
井口 佳典	63周年④、66周年④、19年チャレンジカップ②
湯川 浩司	63周年⑤
萩原 秀人	66周年③
市橋 卓士	15年MB大賞②、61周年④



地元からただ一人の出場となる江口晃生



当地抜群の成績を残す瓜生正義

表3は過去の桐生での成績を表したもので、ひととき目を引くのが瓜生正義の実績だ。近10年でGII優出5回、優勝1回とこれだけでもすごいが、瓜生はこれ以外にも10年ダービー、12年メモリアルとSG優勝が2回もある。出走回数も決して少ないわけではない、それでいて当地通算勝率はメンバートップの7・80と破格の数字を残し、水面相性は文句なしと言っている。

松井繁は数々の栄光の中で桐生はなかなか勝てないレース場の一つだったが、17、19年の赤城雷神杯を制するなど近年の成績は抜群にいい。今年2月には一般戦を走ったばかりで、この時は準優で敗れているが、現行モーターを一度走っていることのアドバンテージは大きい。

遠征組では他にも、井口佳典、笠原亮はビッグレースでしっかり結果を出してきた。走る機会の多い中澤和志や石渡鉄兵、齊藤仁ら関東の選手はもちろん水面相性に不安はない。徳増秀樹や佐々木康幸、林美憲も好成績を残し、近年は走る機会があまりなかった平尾崇典や平田忠則も少ない出走回数の中で優出まで駒を進めている。

その一方で市橋卓士は15年MB大賞、17年の周年ともに優勝戦の1号艇で敗れている苦い記憶があり、今回はその記憶を払拭したいところだ。

表4 当地勝率上位10選手 (15~24年まで)

順位	選手	勝率	2連率	優出回数	優勝回数
1	瓜生 正義	7.80	54.38	15	4
2	松井 繁	7.68	45.79	7	2
3	江口 晃生	7.60	62.65	126	44
4	平田 忠則	7.58	62.09	11	3
5	太田 和美	7.44	50.44	10	2
6	池田 浩二	7.37	49.29	4	2
7	平尾 崇典	7.35	52.55	5	3
8	徳増 秀樹	7.31	60.29	15	7
9	寺田 千恵	7.27	58.03	15	2
10	吉川 元浩	7.17	47.26	10	3

桐生勝率トップは瓜生正義の7・80
松井繁は近年の赤城雷神杯でV2

地元番記者が厳選 桐生の注目エンジンを丸裸に!!

56 号機 2連対率 35.7% 評価 A+ 近況 ↑ 2月に藤山翔大が乗って急上昇した。次操の和田拓也もペラ調整がはまり、直線を中心にトップ級の仕上がり。	45 号機 2連対率 50.9% 評価 A+ 近況 ↑ 1月のマスターズLから上昇線。3月に森定晃史が優勝、次操の松尾昂明は優出6着で、ともに上位級の足。	12 号機 2連対率 50.9% 評価 A+ 近況 ↓ 正月開催で毒島誠が準パーフェクトVを達成した。エース機候補だったが、近況は下降線であまり目立たない。	38 号機 2連対率 47.2% 評価 A+ 近況 ↑ 調整に好反応、乗り手によって特徴が変えられる。3月の伊藤喜智は「伸びは節一級」。	52 号機 2連対率 54.8% 評価 S 近況 ↗ 2連対率トップのエース機で、初おろしから6節連続優出を記録した。現在はバランス型で高水準をキープ。
30 号機 2連対率 48.9% 評価 A 近況 ↗ 3月に準優勝の湯川浩司は「エンジンが出足型かも」。次操の藤田竜弘は8走中6回も3連単の舟券に絡んだ。	66 号機 2連対率 42.5% 評価 A 近況 ↗ 優出0も、初おろしから水準以上キープ。石野貴之はエース機の選手より「強いし、節一くらいあると思う」。	58 号機 2連対率 32.5% 評価 A 近況 ↑ 1月のマスターズLで富山弘幸が上々の行き足。3月に長谷川晴哉が地元初優出で準優勝し、直線系は節一級。	36 号機 2連対率 50.0% 評価 A 近況 ↑ 3月の黄金井力良、伏見俊介がA1級を押しつけて優出。P離れや出足に若干の不安はあるが、直線系は良好。	39 号機 2連対率 44.4% 評価 A 近況 ↗ やや1着数が少なく、上がりタイムも出ていないが、3月に岡田憲行がペラ調整で節一の足に。伸び寄り傾向。



6節連続優出した52号機がエース直近に走った選手が調整は有利!

エンジンの初使用は年またぎの正月開催。翌節のマスターズLで全機が出そろい、PGIマスターズCは10節目となる。桐生はエース機不在、上位ひとかたまりになるケースが多いのだが、今回は早々に抜きんできたエンジンがある。

エースは52号機。初おろしから橋本久和、馬袋義則、大塚雅治、中嶋健一郎、中野次郎、山口修路が6節連続で優勝戦に進んだ。バランス型の調整でオール3連対Vの中野は「このエンジン、今後とも一番いいんじゃないですかね」と評価した。その後、新人の早川颯太がゴングで連続優出こそ途切れたが、その早川は「足の良さが僕でも分かるくらいなので、エンジンはいいと思います」と話しており、変調はないと見られる。

38号機は正月、関浩哉が出足型に仕上げて準優勝した。照屋厚仁はバランス型、伊藤喜智は伸び型で好成績。調整にもしっかりと反応があり、現在、エース機に次いでナンバー2の位置付けとなる。

毒島誠が正月に優勝したのは12号機。浦上拓也、藤岡俊介も優出してエース候補だったが、松井繁が思いのほか出ていなかったのは気になる。近況の動きなら45号機、56号機の方が上だ。

桐生は気圧が低く、レースの間も昼夜にわたる。全国的に見て調整が難しい方だけに、出走機会の多い選手、直近に走った選手らはエンジン相場通りに出してくるだろうが、逆のパターンも頭に入れておきたい。

(スポーツ報知・佐々木 伸)